

# 第3文型 (SVO) → 第4文型 (SVOO) の変形

第3文型 主語 (S) 述語 (V) 目的語 (O)

例、

She	made	dinner.
彼女は	作った	夕食を
主語 (S)	述語 (V)	目的語 (O)

↑ このSVOの文章の内、目的語 (O) について考える。

dinner

夕食<sup>を</sup>

↑ この日本語の「<sup>を</sup>」

(いわゆる難しい方の「<sup>を</sup>」)

これが出てきたら、

この箇所が目的語

# 覚え方は

を → O → Objective → 目的語

## 例文①

He	made	lunch.
彼は	作った	昼食を
主語 (S)	述語 (V)	目的語 (O)

## 例文②

She	bought	a book.
彼女は	買った	本を
主語 (S)	述語 (V)	目的語 (O)

## 例文③

She	lent	some money.
彼女は	貸した	いくらかお金を
主語 (S)	述語 (V)	目的語 (O)

## 例文④

She	sent	a letter.
彼女は	送った	手紙を
主語 (S)	述語 (V)	目的語 (O)

## 例文⑤

She	gave	a food.
彼女は	与えた	食べ物
主語 (S)	述語 (V)	目的語 (O)

以上が第3文型 (SVO) の基本型。

次に、第3文型 (SVO) を第4文型 (SVOO) に変化させる。

もう一度最初の例文 She made dinner. に戻る。

She	made	dinner.
彼女は	作った	夕食を
主語 (S)	述語 (V)	目的語 (O)

↑ この第3文型 (SVO) を、第4文型 (SVOO) に変化させる。  
そのためには、O (目的語) をもう1つ追加しないといけない。

なので

She made me dinner.



ここに me 入れてみる

すると、

She	made	me	dinner.
彼女は	作った	私に	夕食を
主語 (S)	述語 (V)	目的語① (O)	目的語② (O)

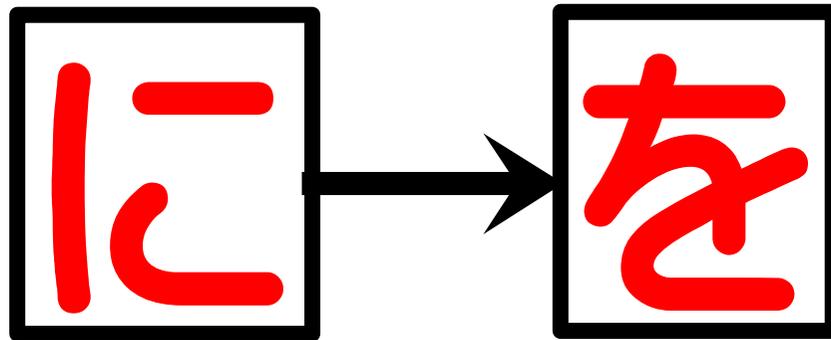
こうなる。これで第3文型から第4文型に変化した。

この第4文型について考える。まず、

「 私に 夕食を 」

↑ 日本語のこの部分

前に「に」が来て、後に「を」が来る。



↑ この形

この形は、「に」が**間接目的語**、「を」が**直接目的語**の形

me

dinner

私**に**

夕食**を**

**間接目的語**

**直接目的語**

↑ 前の「**に**」が**間接目的語**  
後の「**を**」が**直接目的語**

※ 「**に**」は「**に (対して)**」と言い換えると分かりやすい。  
「私**に**」→「私**に (対して)**」→私に対して夕食を

今までの話をまとめると、

She  
彼女は  
主語 (S)

made  
作った  
述語 (V)

me  
私に (対して)  
目的語① (O)  
間接目的語

dinner.  
夕食を  
目的語② (O)  
直接目的語

→「彼女は私に夕食を作った。」

↑こうなる。もう少し分析する。

まず、

made  
作った  
述語 (V)

←この部分、

## 第3文型の場合は

She            made            dinner.

彼女は            作った            夕食を

→ 彼女は夕食を作った。

↑ 日本語訳は単に「作った」とした。

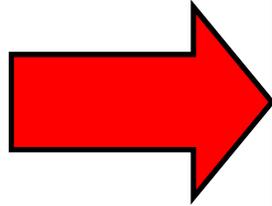
しかし、

これを第4文型に変化させた場合は

She made me dinner.  
彼女は 作ってくれた 私に 夕食を

第3文型するとき

made  
作った



第4文型するとき

made  
作ってくれた

↑ こう訳す (少し恩着せがましい感じ)  
その方がニュアンスが伝わりやすい。

# 例文①

He	made	lunch.
彼は	作った	昼食を
主語 (S)	述語 (V)	目的語 (O)



He	made	me	lunch.
彼は	作ってくれた	私に	昼食を
主語 (S)	述語 (V)	目的語① (O) 間接目的語	目的語② (O) 直接目的語

彼は昼食を作った。→彼は私に昼食を作ってくれた。

# 例文②

She	<b>bought</b>	a book.
彼女は	<b>買った</b>	本を
主語 (S)	述語 (V)	目的語 (O)

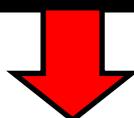


She	<b>bought</b>	me	a book.
彼女は	<b>買ってくれた</b>	私に	本を
主語 (S)	述語 (V)	目的語① (O) 間接目的語	目的語② (O) 直接目的語

彼女は本を**買った**。→彼女は**私に**本を**買ってくれた**。

# 例文③

I	made	lunch.
私は	作った	昼食を
主語 (S)	述語 (V)	目的語 (O)

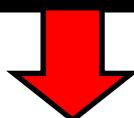


I	made	her	lunch.
私は	作ってあげた	彼女に	昼食を
主語 (S)	述語 (V)	目的語① (O) 間接目的語	目的語② (O) 直接目的語

私は昼食を作った。→私は彼女に昼食を作ってあげた。

# 例文④

I	<b>bought</b>	a book.
私は	<b>買った</b>	本を
主語 (S)	述語 (V)	目的語 (O)



I	<b>bought</b>	her	a book.
私は	<b>買ってあげた</b>	彼女に	本を
主語 (S)	述語 (V)	目的語① (O) 間接目的語	目的語② (O) 直接目的語

私は本を**買った**。→私は**彼女に本を買ってあげた**。

# 例文⑤

She	called	a taxi.
彼女は	呼んだ	タクシーを
主語 (S)	述語 (V)	目的語 (O)



She	called	me	a taxi.
彼女は	呼んでくれた	私に	タクシーを
主語 (S)	述語 (V)	目的語① (O)	目的語② (O)
		間接目的語	直接目的語

彼女はタクシーを呼んだ。→彼女は私にタクシーを呼んでくれた。

ところで、第3文型から第4文型に変化させたときに、

第3文型

She made lunch.

第4文型

She made **me** lunch.

↑ **me**を追加したが、

そもそもここにはなぜ、

**me**を入れるのだろうか？

というのは

**I**

**my**

**me**

**mine**

というように、「私」に関連する単語が4つあるが、  
なぜここには  でもなく  my でもなく  mine でもなく  
 me を入れるのだろうか？

× She made  I dinner.

× She made  my dinner.

○ She made  me dinner.

× She made  mine dinner.

この点について考えてみると、

She made **私** dinner.

**私**



ここに入れるのは間接**目的語**である。

なので、

目的格を  
使う

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
私	I	my	<b>me</b>	mine

→ She made **me** dinner.

同様に

I made **彼女** dinner.

↑  
ここに入れるのは間接**目的語**である。

なので、

↓  
目的格を  
使う

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
彼女	she	her	<b>her</b>	hers

→ I made **her** dinner.

She made **彼** dinner.

**彼**



ここに入れるのは間接**目的語**である。  
なので、

**目的語**

目的格を  
使う

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
彼	he	his	him	his

→ She made **him** dinner.

She made **彼ら** dinner.

**彼ら**



ここに入れるのは間接**目的語**である。  
なので、

**目的語**

目的格を  
使う

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
彼ら	they	their	<b>them</b>	theirs

→ She made **them** dinner.

She made **私たち** dinner.

ここに入れるのは間接**目的語**である。  
なので、

目的格を  
使う

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
私たち	we	our	<b>us</b>	ours

→ She made **us** dinner.

We wish **あなた** a merry christmas.

ここに入れるのは間接**目的語**である。

なので、

目的格を  
使う

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
あなた	you	your	<b>you</b>	yours

→ We wish **you** a merry christmas.

→ 「**あなた**に愉快的なクリスマスを願う」→ 「よいクリスマスを！」

I beg **あなた** a pardon.

ここに入れるのは間接**目的語**である。  
なので、

目的格を  
使う

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
あなた	you	your	<b>you</b>	yours

→ I beg **you** a pardon.

→ 「**あなた**に許しを請う」→ 「すみませんでした。」

このように、

**目的語**だから、**目的格**を使う

こう考えると納得が行く。

以上が、

**第3文型**→**第4文型**の変化 についての考え方です。

次回のファイルでは、

**第3文型**→**第4文型**と変化させた後、再び、

**第4文型**→**第3文型**

と戻すパターンを考えようと思います。